

研究情報入力支援システム の構築

平成28年度学術情報システム総合ワークショップ
中間報告会発表資料 2016/8/26

A班:

柏倉美紀・田村峻一・野間口真裕・堀久仁子

海洋研究開発機構

滋賀医科大学

京都大学

自然科学研究機構
国立天文台

これまでの経緯

- 各自の機関における、研究に関わる情報（以下、研究情報）システムについて調査

京都大学

滋賀医科大学

国立天文台

海洋研究開発機構

- 課題の抽出
- システムの概要決定

課題の抽出

- **研究情報**について、各管理部署や研究プロジェクトのウェブサイト等でそれぞれに公開しており、広く発見されにくく、全体を俯瞰しづらい状況
- 自機関の**研究情報**を自動的に収集し、機関内外での利活用を可能にするシステムが無い
- 様々な**研究情報**を可視化して、評価・広報等につなげたい

課題解決のための方策

- 統一的なシステムに一本化
→発見可能性の向上
- ID連携等を用い自身(自機関)の研究情報を収集
→業務の効率化
- 研究データ(エビデンスデータ)も扱えるように
→学術情報の流通に研究データを組み込む

- VISION -

自機関の研究情報を機関内外で適切に流通させる

- MISSION -

研究者・管理者の負担減
検索・発見されやすく

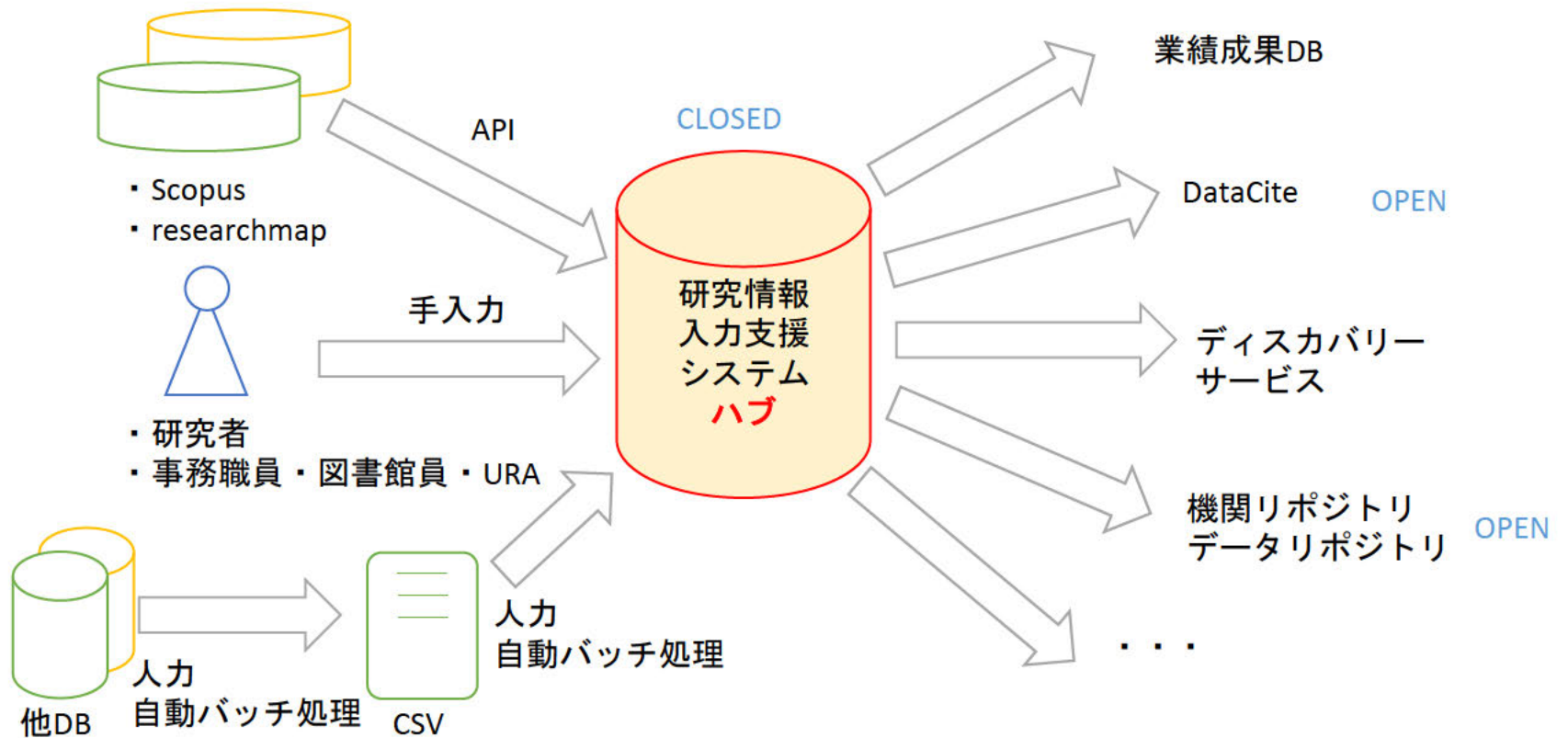
- STRATEGY -

研究情報を効率よく収集、(一時)保存し、適切な形で検索システムに出力する、ハブとなるシステムを構築する

- OBJECTIVES -

入力者の負担が減ったかどうか
より多くの研究情報が公開され、より検索されやすくなったかどうか

研究情報入力支援システム モデル図



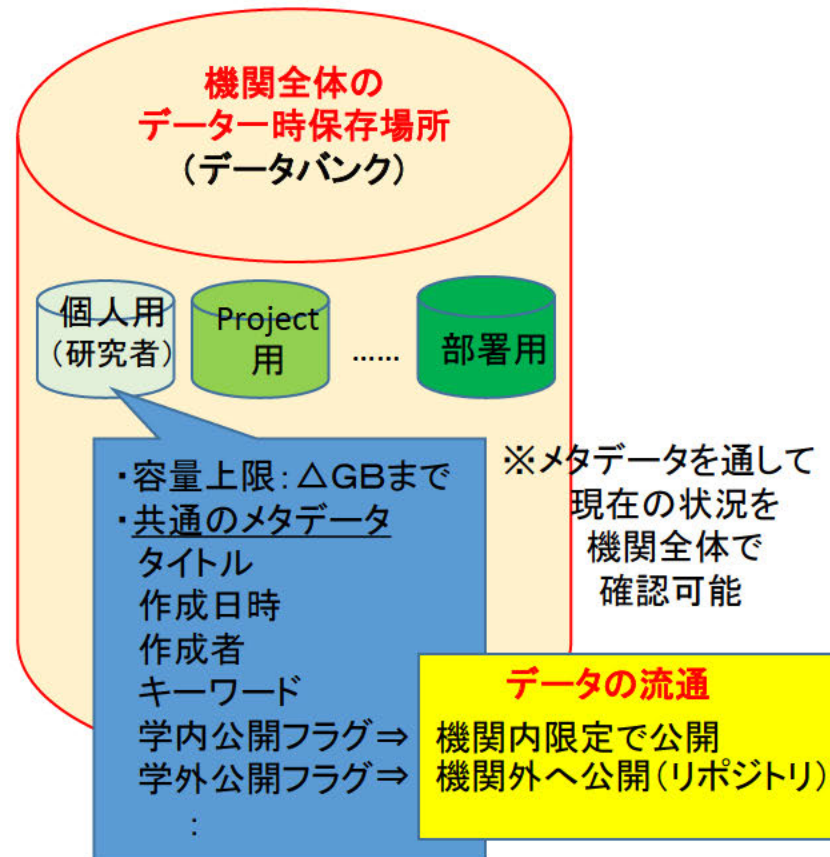
研究情報入力支援システム ハブ

◆これまでの問題点

- ・各種データの個別の公開サイトやメタデータを集めたポータルサイトはあるが、全データを一括して集められる場所がない。
- ・ローカル(HDやPC等)に置かれたままのデータも多い。

◆解決策

最初から、**共同のデータ(一時)保存場所**が機関内にあるとよい。
メタデータも共通のものを作成(自動メタデータ作成機能を利用)して検索しやすくする。



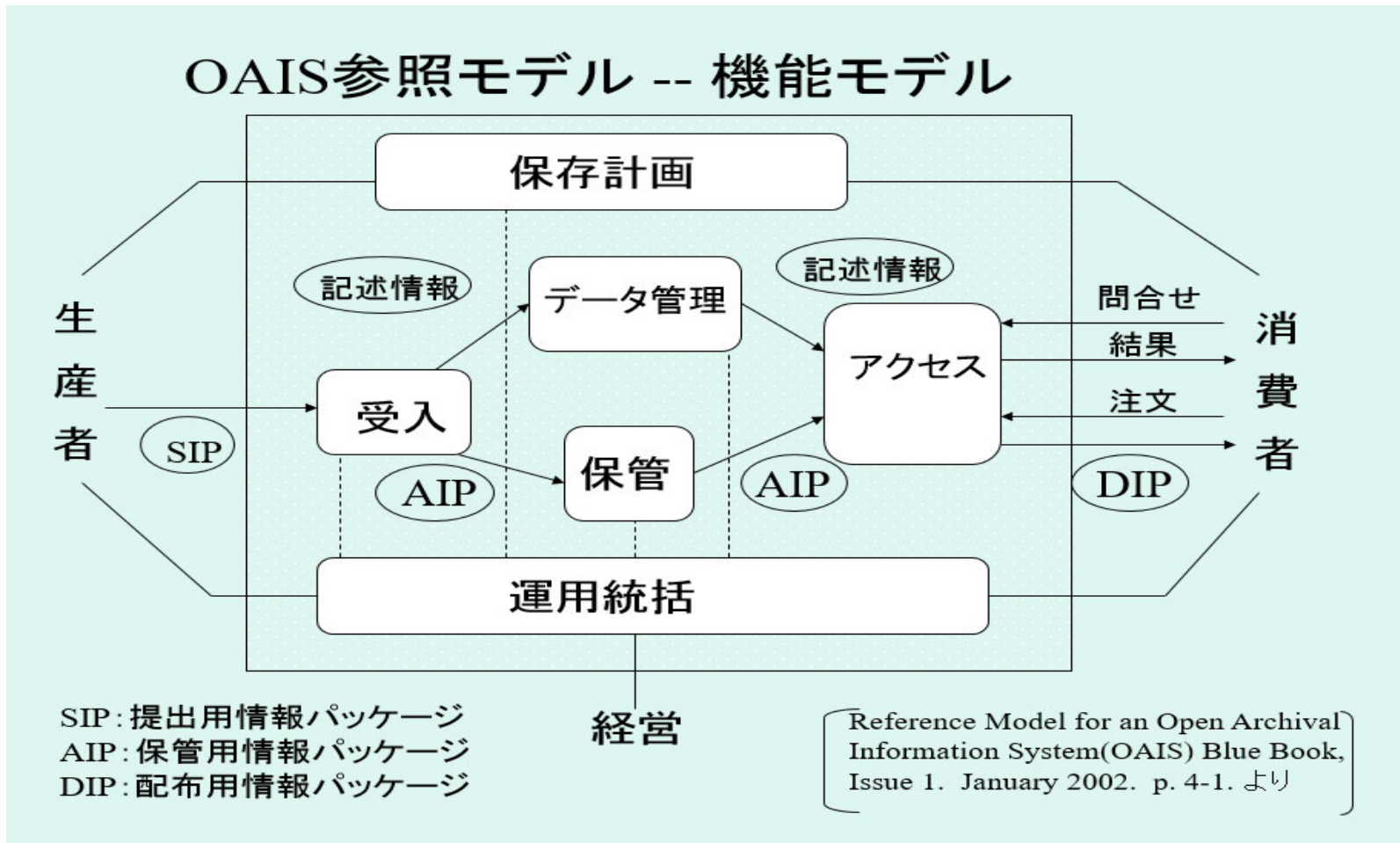
※公開フラグが立たないデータはこのまま保存

機能	データ収集
	メタデータの付与・編集・管理

- ・Insert/update/deleteが可能 情報パッケージ
- ・人的でなく、情報パッケージ※を利用して機械が自動で行う
 - ※SIP(受入れ)・AIP(保管)・DIP(配布)

ユーザー	研究者
	機関(管理者)

(参考) ネットワーク情報資源の保存と OAIS参照モデル



今後のスケジュール

～第3回報告会に向けて～

[スケジュール]

6月30日～7月1日：企画内容決定



第1回WS@NII

7月～8月 各自調査、報告書作成@各自機関

8月25日～26日：中間検討会

第2回WS@NII



9月～10月 追加調査、仕様書作成@各自機関

★11月1日～2日：報告会

第3回WS@NII 追加調査、仕様書作成に向けて

・11月～12月 調査報告書作成@各自機関

◎追加調査(～9月半ばまで)

- ・不足している情報の収集

- 認証方法

IDとPW認証だけでよいのか？

- メタデータ自動補完の方法

例：researchmapからAPIでデータを
取得し、自機関のデータを補完する

- 名寄せ

どの研究者IDで紐付できるか

- 外部データベースとの連携
どのようにしたらDataCiteのようなDBに
アップできるか？
- どのようにして**研究情報**を集めるか？
DOIや自機関名で紐付、
APIで取り込む

◎決定すること(10月前半まで)

- 項目・ディテールの決定
 - メタデータ項目、メタデータ取込連携
 - システム連携(入力、出力)、公開条件
- インタフェースの決定(ユーザ・管理者)
- 出力先との連携(自機関公開サーバ、外部DB)
- 仕様書作成の方法

◎作業(10月後半まで)

- ・仕様書作成
- ・レビュー
- ・手直し
- ・成果物(報告書)作成について

2機関、2大学の抱えている問題解決も
考慮しつつ、新サービス構築を遂行！